



誠和会 横田 義和

住める街から住みたい街への 実現に向けて

代表質問

八街市が目指す 将来の問題について

問 基本構想の第1章、策定の趣旨から第5章の施策の大綱、八つの街づくりに関して伺う。

市長

街づくりの基本理念を「ふるさとを守り育て、活力や文化の薫りに満ち、心安らぐ街づくりを市民と行政の協働により進める」とし、街づくりのテーマを「やちまた『八つの街づくり』宣言」とし「八」にちなんで施策の大綱を八つに区分致しました。

基本理念、将来都市像、街づくり宣言や八つの施策大綱などからなる20年間にわたる基本構想は、現下の社会情勢を見据え、市の財政状況や制約を考慮し、できる限り、私の公約や政策を織り込みながら策定されたものとの認識にあります。

問 長谷川市長の4期16年間で掲げた政策の実現度は如何か伺う。

市長

私の掲げた政策につきましては、着実に実行できていると思われまます。

各小学校区に児童クラブを設置、乳幼児の医療費助

成では、本年4月から小学校6年生まで拡充、富山十字路や川上小学校付近の交

差点改良、来春には一部供用開始できる八街バイパス事業も実施、八街幹部交番の移転、警察施設の充実や増員、間もなく着工される

駅前交番、ほぼ完了した八街駅北側地区土地区画整理事業や駅舎の橋上化、八街中央中学校の武道館建設、

一般廃棄物最終処分場やクリーンセンターの建設、実施した施策は、まだまだありますが、健全経営を維持しながら市民の福祉の向上と安全で安心な街づくりのための施策が、ほぼ公約どおり実行できたものと考えております。

道路問題について

道路問題について

問 渋滞解消の観点から市内の右折レーン設置の要望について伺う。

市長

八街市総合計画第2次基本計画で位置付けられている市道114・116・210号線の交差点改良事業の中で、信号機を設置するとともに、116号線に右折レーン設ける計画となつて

おり、平成24年度完成を目指しており、また、国道409号の四木入口交差点については、地元説明会が開催され地元関係者に協力をお願いしたところです。

問 酒々井インター開設やアウトレットモール開場の時期に合わせての住野十字路の右折レーン設置を望むが如何か。

市長

平成25年4月に(仮称)酒々井インターチェンジが完成する予定となつてのことから、そのアクセス道路でもある国道409号と主要地方道富里・酒々井線の交差点する住野十字路の交差点改良については大変重要であると認識しており、引き続き県へ積極的に要望したいと考えております。

区制度問題について

問 区制度のあり方や役割・機能を検討し、新しい地域自治体制の確立を図ると謳われているが、いかなる方向性を求めるのか伺う。

市長

市民の価値観などが多様化し、市民のコミュニティ意識も希薄となつている昨今、さらに核家族や高齢化により、地域コミュニティに参加する機会がとれないなどの理由から区等への加入率が年々低下しています。現在の生活スタイルに応じた地域コミュニティのあり方や役割・機能を再確認しコミュニティ活動や地域行事を活性化する情報提供及び地域の中心となるリーダーの育成、市民意識の高揚に努め、同じ地域に住む市民の連携により、地域の活性化、地域力の向上が図れるよう一層の支援に努めていきます。

防災問題について

問 八街市民意識調査で、優先的実施施策の1位は交通安全や防犯となつておることから防犯体制の強化や防犯活度の推進について伺う。

市長

市内で活動される防犯パトロール団体の活動は計り知れないものがあり、これらの活動に必要となる帽子や腕章、マグネットシートなどを活用していただき、監視活動を支援しています。

平成20年度に導入した青色回転灯付き防犯パトロール車を活用すると共に、地域のパトロール隊との連携で「見せる防犯活動」を実施しています。今後も地域の皆さんが積極的に防犯活動を展開していただけるよう、区長会議や、さくら防犯ネットワークの情報交換等呼びかけ、地域の防犯活動を展開していただく参加団体の結成に向け、警察署と推進したいと考えます。

鳥獣の被害や鳥獣駆除の検討について伺う。

市長

鳥獣による農作物の被害は本年3月の調査では全体で約470万円の被害報告を受け、そのうち約60%がカラスによるものです。このため本市では毎年、佐倉猟友会八街支部及び川上支部の協力でカラス駆除を実施し、本年は6月から7月にかけて6回実施し108羽のカラスを駆除したところです。今後はカラス以外の鳥獣被害にも備え、駆除対策等の情報収集に努めたいと考えます。

鳥獣の被害や鳥獣駆除の検討について伺う。

市長

鳥獣による農作物の被害は本年3月の調査では全体で約470万円の被害報告を受け、そのうち約60%がカラスによるものです。このため本市では毎年、佐倉猟友会八街支部及び川上支部の協力でカラス駆除を実施し、本年は6月から7月にかけて6回実施し108羽のカラスを駆除したところです。今後はカラス以外の鳥獣被害にも備え、駆除対策等の情報収集に努めたいと考えます。

鳥獣の被害や鳥獣駆除の検討について伺う。

市長

鳥獣による農作物の被害は本年3月の調査では全体で約470万円の被害報告を受け、そのうち約60%がカラスによるものです。このため本市では毎年、佐倉猟友会八街支部及び川上支部の協力でカラス駆除を実施し、本年は6月から7月にかけて6回実施し108羽のカラスを駆除したところです。今後はカラス以外の鳥獣被害にも備え、駆除対策等の情報収集に努めたいと考えます。